

当別文芸の会だより NO.31

H24・10/28 発行 (連絡先・河地良一 TEL23-2103)

10月の「文芸交流・読書会」盛会でした

10月13日(土)、今月からは開催時刻を13:40に変更(列車時刻を考慮)。白樺コミセンでの「文芸交流・読書会」には、メンバー(同人)14名の方が参加されました。司会進行は竹原一孝さんに担当していただきました。

北海道生まれで初めての芥川賞受賞作品(昭和14年)である寒川光太郎の「密猟者」を取り上げ、読書会の始めに、メンバーで「北海道文学館」に勤務したことのある青柳文吉さんに「寒川光太郎の世界」と題して、彼と父との関係を中心に提言をいただきました。

光太郎の父の菅原繁蔵(実名)は、山形県出身の植物学者で、樺太博物館の専門員を勤め、貴重な「樺太植物図誌」を残しています。光太郎は父が若い頃、羽幌で小学校の教員をしていた時に生まれ、法政大学に進みますが、父の後を追って樺太博物館の館員にもなり、父の影響を強く受けたようです。

「密猟者」は、実際の猟師(密猟者)が彼の父に語った話が素になっており、青柳さんの話を聞いて、参加者一同、興味がそそられた読書会になりました。

11月の「文芸交流」のご案内

今回は11月17日(土)13:40より白樺コミセンが会場です。

内容は「文芸交流」で、『小説「石狩川」を読んで』をテーマに、メンバー(同人)の3人の方に提言をいただきます。

(提言20分×3人)

提言1 本庄陸男の生涯と「石狩川」

青柳 文吉 さん

提言2 北海道の開拓と「石狩川」

— 当時の時代背景と「石狩川」 —

東前 寛 さん

提言3 「石狩川」の読後感想

— 本庄陸男が伝えたかった「石狩川」 — 堀江三千代 さん

その後、全員で意見交流をしたいと思います。当別の開拓の歴史に重ねて、当時の労苦を思い起こしてみる機会になることでしょう。

なお、11月10(土)13:30より、2会場(ふれあい倉庫・西当別コミセン)同時開催で、小説「石狩川」を脚本にした映画「大地の侍」(主催・当別ライオンズクラブ)の上映会がありますので、足を運んでみては・・・

*12月の読書会(12/8)は、鶴田知也の「コシャマイン記」(第3回芥川賞受賞作品・昭和11年)を取り上げます。向寒の折、風邪を召さぬよう・・・